

1 京都市雲ヶ畑文書調査

長谷川巴南

1. 波多野家文書調査

昨年度 3 月に、京都府立大学文化遺産学叢書第 19 集『京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告』を刊行し、2018 年より継続していた京都市北区雲ヶ畑・波多野家文書の調査はひと区切りを迎えた。今年度は雲ヶ畑の現地調査、文書の読解・分析を実施した。

2. 御猟場調査

2020 年 4 月 1 日、雲ヶ畑への現地訪問を行った。参加者は東昇、上杉和央（以上、教員）、長谷川巴南（3 回生）である。まず、波多野家文書内の系図とほぼ同内容の系図の所蔵者宅を訪問し、系図を確認し撮影を行った。同時に雲ヶ畑の林業や生活の話を伺った。

次に、雲ヶ畑の隣、真弓地区にて、御猟場にちなんだ遺構「忠犬碑」を見学した。雲ヶ畑では、明治時代後期から宮内省の御猟場が設置された。碑には（表）「忠犬碑 / 主猟官子爵織田信親書（印）（印）」、（裏）「良号 大正四年一月二十四日斃死 / 七号 大正四年一月二十四日斃死」とある。猟犬の名前は良号、七号であり、大正 4 年 (1915) 1 月 24 日に死亡している。波多野家文書には、その日に上村彦之丞、黒木為禎（共に日清・日露戦争時の大将）も同行した猟が開催されたとある。揮毫は元丹波柏原藩藩主で当時主猟官であった織田信親である。

3. 「四国八十八ヶ所巡拝旅中日記日並帳」

2020 年度前期を通して波多野家文書「四国八十八ヶ所巡拝旅中日記日並帳」（文書番号：3-79）の読解を行った。当文書は 10 代目波多野六之丞（当時は富太郎、26 歳）の天保 5 年 (1834) 8 月 22 日から 10 月 12 日までの四国八十八か所札所巡りの旅日記である。翻刻に加えて、その遍路生活をまとめた解題を作成した。解題では旅程、通行手形、遍路生活、日記の凡例といった事項に触れている。

この分析を踏まえて、東昇が『伊豫史談』399 号（2020 年 10 月）で「天保五年山城国中畑村波多野富太郎の四国順拝」を発表した。



写真 1 忠犬碑